

学校経営計画

令和8年度 港区立御田小学校 学校経営計画【概要版】

みんな元気 たのしい 御田小学校

港区立御田小学校
校長 齋藤 恵

校訓「母校ヲ愛スル者八国ヲ愛ス」(本校卒業生 小泉信三先生の言葉より)

文部科学省「論点整理」から

～次期学習指導要領に向けて～

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実装(Excellence)
- ②多様性の包摂(Equity)
- ③実現可能性の確保(Feasibility)
- ◆生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる
- ◆民主的で持続可能な社会の創り手を「みんな」ではくむ

※「みんな」:教職員・子供・保護者・地域住民・地方公共団体の職員・民間の担い手を服務

「社会に開かれた教育課程」
「個人と社会の Well-being の実現」
◆「好き」を育み、「得意」を伸ばす
◆当事者意識をもって自分の意見を形成し対話と合意ができる

東京都教育ビジョン

【東京の目指す教育】

学校、家庭、地域、市区町村、関係諸機関等が連携して誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望をもって自ら伸び、育つ教育

「未来の東京」に生きる子供の姿
◆自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる
◆他者への共感や思いやりをもつとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する

港区教育ビジョン

【基本理念】

誰一人取り残すことなく、全ての人の学びを生涯にわたり支える

【目指す人間像】 他者を思いやる心をもちながら、自ら学び、考え、行動し、心豊かに生きる人

港区学校教育推進計画

<取組強化事業>

- 国際理解教育の推進
- ICT を活用した学びの充実
- 基礎学力・活用力の習得

<御田小学校 教育目標>

- ・よく考え くふうする子ども
- ・すすんで行き やり通す子ども
- ・仲良く はげまし合う子ども
- ・じょうぶで心ゆたかな子ども

目指す児童像

- ◆「考えること」を楽しめる
- ◆「自分事」として物事をとらえ、「相手意識」をもって自分の考えを表現できる
- ◆当たり前のことが当たり前に行える
- ◆自分も相手も大切にできる

—すべての教育活動は御田小学校の子供たちのために—

【目指す学校像】—すべての子供が希望をもち、多様な人々と協働しながら学ぶことのできる学校—

- 子供が「通いたい」学校
- 保護者が「通わせたい」学校
- 地域が「支えたい」学校

【目指す児童像】—他者への共感や思いやりをもち将来への希望をもって伸びる子供—

- 自らの可能性を最大限に発揮し、幸せな場や環境をつくる子
- 自らの問いを見つけ、主体的に学ぶ子
- 互いの違いを認める柔軟な心をもち、他者とコミュニケーションできる子
- 当たり前のことが当たり前ができる子

【目指す教職員像】—子供たちの Well-being のために尽力する教職員—

- 他者と協働して幸せな職場をつくる教職員
- 自ら学ぶ姿勢をもち、子供に憧れられる「大人」の見本になる教職員
- 保護者・地域との関係を大切に、よりよいコミュニケーションを図れる教職員
- 働き方改革を推進し、子供たちに質の高い教育を提供する教職員

徳

- 人権尊重教育(いじめの未然防止・早期発見)・ふれあい月間・人権週間
- 道徳教育の充実・道徳授業地区公開講座
- 異学年交流・縦割り班活動・三田アカデミー(代表委員会)・ふれあいまつり
- 環境教育(SDGs、みなとエコアクション)
- マイスクールPRコンペティション(代表委員会を中心とした御田小学校のよさをアピールする活動)
- 秋田千畑小交流(PTA 交流部主催の交流活動及び4年生による授業交流)
- 御田太鼓(6年生有志による活動)

知

- 基礎学力の充実、学び続ける力の育成
習熟度別学習、教科担任制、朝学習、1年生プレクラス
- 主体的・対話的で深い学びの実現
- 協働的な学びと個別最適な学びの一体化
- 複線型授業の実施、充実
- ツールとしてのICT機器の有効活用(Google for Education、タイピングソフト、スクールタクト)
- オンライン授業日の設定
- 国際理解教育の充実(English Day 1回/月、TG G体験(5年生))
- 体験的学習の充実(宿泊学習、ゲストティーチャー、オンライン学習)
- 読書活動の充実(リーディングツリー、読書月間)
- 学習発表会
- 特別支援教室における指導の充実

体

- 体力向上の取組
(朝遊び・ボルダリングウォール・一輪車)
- MINATO リズムダンスフェスタへの参加
- 体育的活動の充実
(運動会、体育集会・長縄・短縄、ペース走、連合運動会)
- 体力テスト結果の考察と活用
- 食育の推進
- 水泳学習の充実(セーフスイム協会と連携した水泳指導、夏季水泳の実施(白金の丘学園))

学校経営計画

令和8年度 港区立御田小学校 学校経営計画

みんな元気 たのしい 御田小学校

港区立御田小学校
校長 齋藤 恵

I 学校経営の基本的な考え方—すべての教育活動は、御田小学校の子供たちのために—

「すべての教育活動は、御田小学校の子供たちのために」ということを念頭に置き、社会の変化を見据え、一人一人が自らの個性や能力を伸ばし、持続可能な社会の創り手としてそれぞれの分野で未来を切り拓いていくための徳・知・体の調和のとれた育成を重視した教育を推進する。

他者への共感や思いやりをもちながら、自らの問いをもち、自ら学び、考え、行動することができる子供を育成していく。

II 目指す学校像 —すべての子供が希望をもち、多様な人々と協働しながら学ぶことのできる学校—

○子供が「通いたい」学校

- ・「学ぶことが楽しい」「勉強がわかる」という経験ができる授業が行われている
- ・自ら課題(問い)を設定し、課題解決の方法を選択しながら主体的に学ぶことができる学習の機会がある
- ・体験的な学習を通して、興味関心を高める活動がある
- ・落ち着いた学習環境、温かい人間関係の中で学べる雰囲気がある
- ・話を聞いてくれる大人(教員、養護教諭、SC、SSW等)がいる
- ・互いのよさを認め合い、励まし合いながら成長することができる
- ・休み時間に思い切り友達と遊べる環境がある
- ・給食がおいしい(食育に力を入れている)

○保護者が「通わせたい」学校

- ・学力向上に向けた取組がなされている
- ・施設や学習環境が整っている
- ・子供たちの活躍が感じられる学校行事が行われている
- ・様々な体験的な活動があり、学校の取組に工夫が感じられる
- ・保護者同士の関係性がよい。

○地域が「支えたい」学校

- ・子供たちの様子がわかるような情報発信がなされている
- ・子供たちが積極的に地域行事に参加している
- ・学校と地域とが連携している
- ・子供たちのために保護者や教職員が奮闘している
- ・学校運営協議会が機能している

III 目指す児童像 —他者への共感や思いやりをもち、将来への希望をもって伸びる子供—

○自らの可能性を最大限に発揮し、幸せな場や環境をつくる子

- ・他者との協働、自己調整を通じて、自分の「よさ」や「得意」に気づき、伸ばそうとする子
- ・「なりたい自分」をイメージし、努力する子
- ・すすんで体を動かし、心も体も鍛える子

○自らの問いを見つけ、主体的に学ぶ子

- ・ICT 機器等を活用し、学習課題を解決する子
- ・学級や学校、地域のために働ける子

○互いの違いを認める柔軟な心を持ち、他者とコミュニケーションできる子

- ・自分の気持ちや考えを相手に伝えようとする子
- ・相手の立場や気持ちを考え、相手のため動ける子
- ・人権意識を持ち、いじめをなくす努力をする子

○当たり前のことが当たり前でできる子

- ・気持ちのよい挨拶と返事(「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」…)ができる子
- ・整理整頓、物を大切にできる子
- ・時間やきまりを守れる子
- ・場に応じた言葉遣い、行動ができる子

IV 目指す教職員像 —子供たちの Well-being のために尽力する教職員—

○他者と協働して幸せな職場をつくる教職員

- ・組織の一員としてよりよい学校を作ろうと努力する教職員
- ・心身の健康を保ち、生き生きと働く教職員

○自ら学ぶ姿勢を持ち、子供に憧れられる「大人」の見本になる教職員

- ・自己研鑽に励み、常に自分も成長しようと努力する教職員
- ・言葉遣い、立ち居振る舞い、身だしなみに気を配る教職員
- ・人権意識を高くもち、子供に寄り添った助言・指導をする教職員

○保護者・地域との関係を大切にし、よりよいコミュニケーションを図れる教職員

- ・保護者の言葉に真摯に耳を傾ける教職員
- ・保護者・地域とのつながりを大切にし、積極的に関わろうとする教職員

○働き方改革を推進し、子供たちに質の高い教育を提供する教職員

- ・ライフワークバランスを考え、自分自身が豊かであろうとする教職員

V 中期的経営目標と方策

1 「徳」「知」「体」を育み、一人一人の個性を伸ばす教育の推進

(1) 【徳】人権教育の精神及び豊かな人間性を育てる教育の推進

① 道徳教育の充実

- ・全教育活動を通じた道徳教育の充実を図るため、カリキュラム・マネジメントの視点で、各教科や学校行事の中で、計画的に道徳教育を実施する。
- ・人権尊重の理念を正しく理解させ、豊かな心を持ち、生命を尊重し、伝統と文化への理解を深め、心身共に健康で人間としてよりよく生きるための基礎・基本となる道徳性を身に付けさせることを推進する。
- ・道徳教育の全体計画、年間指導計画に基づき、年間 35 回の特別の教科 道徳の授業を充実させる。
- ・道徳的価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方についての考えを深めるとともに、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

② 生活指導の充実

- ・「御田小学校の約束」を活用し、全校で統一した指導ができるようにする。学習規律、生活規律の徹底を図ることで、規範意識を醸成していく。
- ・「当たり前のことが当たり前でできる」を合言葉とし、挨拶・返事、気持ちのよい挨拶・返事、整理整頓、きまりの順守、言葉遣い等を意識させていく。

③ 特別活動の充実

- ・特別活動を通して、所属集団の中で、人間関係形成能力・社会性を身に付けさせる。小集団や学級、学年、縦割り班などの集団の中で、課題を解決するために合意形成を図ったり意思決定したりしていくことで、多様な意見に触れ、考えを広げたり多面的・多角的に考えたりできるようにしていく。

・地域との交流活動や異学年交流を通して、思いやりの心の育成や豊かな人間性の伸長に努める。また、様々な体験活動を通して、場に応じた社会的な決まりを理解し、自ら人権を守ろうとする心情を育成する。

④特色を生かした活動の充実

・PTAの交流部による4年生以上の希望者と秋田千畑小学校との交流を行う。交流後は報告会を通して全校児童に千畑小学校の良さを伝えると同時に、自分たちの地域の良さに気づき、大切にしようとする気持ちを育む。

・6年生有志による御田太鼓の活動を通して自校の伝統を大切にすることを育むとともに、地域行事に参加し、地域とのつながりを実感できるようにする。

(2)【知】主体的・対話的に学習に取り組む態度を身に付けさせる教育の推進

①基礎学力・活用力の習得、学び続ける力の育成

・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるために、言語環境を整え、言語活動の充実を図るとともに、教師による指導の個別化を図り、思考力・判断力・表現力等や自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度を育成する。

・一人一人に応じたきめ細やかな指導を行うため、習熟度別少人数指導を充実させ、個々の児童の課題に応じた指導、児童の興味・関心等に応じた学習、補充的な学習活動を取り入れた指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、指導の充実を図る。

②ICT機器の効果的な活動

・ツールとしてのICT機器の有効活用を可能にするため、タイピングソフトを活用し、タイピングスキルの向上を図るとともに、Google for Education の取組を推進する。

・ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図り、自由進度学習をはじめとした複線型授業を推進する。

・SNSルールなど個人情報の保護、情報機器のよりよい活用に向けたルールの徹底を図る。

・ICT担当教員を中心として、ICT教育に関する教員研修を実施し、指導に必要な資質・能力を身に付けられるようにする。

③国際理解教育の充実

・地域資源を活用し、地域にある大使館訪問や出前授業の充実及び施設の見学や訪問を通して自国の文化や他国の文化に触れる。

・TGG(TOKYO GLOBAL GATE CITY)の体験(5年生)を通して、日常的な会話や説明の内容を理解し、コミュニケーションをとれるようにする。

・国際教室の環境整備や毎月の English Day を通して英語に対しての意欲・関心の向上を図り「国際科」の指導の充実を図る。

④体験的学習の充実

・夏季学園(5年生)、移動教室(6年生)において、箱根の自然や文化について学ぶ。

・学校 2020 レガシーの取組として、ゲストティーチャーによる出前授業を実施する。

・秋田千畑小交流(4年生以上)を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、互いの地域の良さに気づき、地域愛を養う。さらに、4年生の総合的な学習の時間にオンラインで千畑小学校との交流を行う。

⑤良書に触れる

・児童に読書の習慣を定着させるために、図書館教育の充実を図るとともに、読書活動を推進し、保護者ボランティアによる「リーディングツリー」や読書月間等の取組を通して読書を推奨していく。

⑥学習発表会

・児童が日頃の学習を生かし、調べたことや学んだことを工夫して発表する機会を設ける。

・相手を意識して効果的に伝えようとする表現力を伸ばすとともに、よりよい作品を生み出そうとする自主的・実践的な態度を育てる。

(3)【体】健康の保持増進及び体力向上を図る教育の推進

①体力向上の取組

- ・体力向上を図るため、教科としての体育科において、基礎的な身体能力を育成するとともに、特別活動や教育課程以外の学校教育活動などを相互に関連させながら、学校の教育活動全体を通じて指導の充実を図る。

②体育的活動の充実

- ・運動習慣確立に向けた様々な運動の取組を行う。
- ・連合運動会(6年生)に向け、それぞれの種目に向けて練習を行う。

③体カテスト

- ・体カテストの結果を分析し、課題を洗い出し、体育科の授業改善につなげる。

④食育

- ・生涯を通じて健康を維持する能力を育成するため、児童の現状と課題を踏まえ、健全な成長をささえる食育を推進する。

⑤保健

- ・感染症や病気・怪我に対応する知識をもち、自ら健康をつくり維持していく力をつける。

2 開かれた学校づくりに向けた教育の推進

(1) 開かれた学校づくりに向けた教育の推進

- ・三田アカデミー(三田中学校・赤羽小学校・赤羽幼稚園・芝小学校)との連携、園児・児童・生徒の交流を柱とした学習・生活指導の方法等について共同で研究を行い、幼・小・中の滑らかな接続ができるようにしていく。
- ・地域コーディネーターと連携し、地域の施設、人材等の地域教育材を生かした学習を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図るとともに、地域を知り、地域を愛する児童の育成を図る。
- ・「こどもまんなか社会」の実現に向け、児童が自分たちで学校及び学校生活をより良いものにしていくための手立てについて考える場を設定する。

(2) 学校運営協議会(コミュニティスクール)の運営について

- ・学校と保護者、地域が協働し、学校運営に関する意見を反映させながら地域とともにある学校づくりを推進する。
- ・協議会の委員は、地域住民、保護者、地域コーディネーター、管理職、学識経験者、関係行政機関の職員(区教委が任命)で構成する。
- ・学校経営方針の承認、学校運営に関すること、学校評価等について協議を行い、よりよい学校経営を行う。
- ・地域コーディネーターを活用し、学校と地域の連携を深める。

(3) 児童が安心・安全に学び、健やかに成長していくことのできる教育環境の整備

- ・特別支援教育を推進し、特別支援教室拠点校としての機能を充実させるために校内委員会を開催し、綿密な情報共有を行う。
- ・SNA(スペシャルニーズアシスタント)を活用し、支援を必要とする児童に対し、柔軟に対応していく。
- ・指導教員、SNA、GST、EA、SC、SSW等の人材を有効活用し、「チームとしての学校」として多面的な児童理解を深め、児童の実態及び発達段階に即した指導を行う。
- ・防犯、防災、交通安全、感染症対策等の様々なリスクから自らの身を守ることができる力を養う。

VI 目標達成に向けた具体的方策

1 「徳」「知」「体」を育み、一人一人の個性を伸ばす教育の推進

(1)【徳】人権教育の精神及び豊かな人間性を育てる教育の推進

- ・特別の教科「道徳」の学習スタイル「考える道徳」「議論する道徳」及び学習時の「導入」「展開」「振り返り」という段階を工夫した授業
- ・道徳授業地区公開講座(内容項目を全校で統一)

- ・年間3回のふれあい月間の充実
- ・人権週間に関連させた朝会時の校長講話、学校便り巻頭言による児童及び家庭への啓発
- ・いじめ防止基本方針に沿った組織的な対応(学校生活アンケート・WEBQU)
- ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応(SC、子供家庭支援センター、児童相談所、警察署等)
- ・SCによる全員面接(4年生、5年生)
- ・ボランティア活動及び奉仕活動、自治的活動(清掃活動や当番活動、係活動、ユニセフ募金、ボランティア活動、委員会活動、縦割り班活動)
- ・キャリア・ポートファイルの作成(各学年の行事や学期ごとの目標及び振り返りについて記載)
- ・秋田千畑小交流(4年生以上の希望者によるホームステイ体験)、千畑小とのオンライン学習、報告会
- ・マイスクールPRコンペティション(代表委員会)
- ・みなと子供エコチャレンジ、SDGsの活動(環境委員会)
- ・6年生有志による御田太鼓の演奏(学習発表会、音楽祭、祭礼、社会を明るくする運動、三田カーニバル、区民まつり等)、6年生から5年生への引継ぎ
- ・地域行事への参加(祭礼、ラジオ体操、まちぐるみ大運動会、区民まつり)

(2) 【知】 主体的・対話的に学習に取り組む態度を身に付けさせる教育の推進

- ・全国学力・学習状況調査、CBTなどの結果分析からの授業改善
- ・3年生以上の習熟度別算数少人数指導(2学級3展開、3学級4展開)
- ・教科担任制、交換授業(3年生以上理科・社会)、講師(音楽、図工)による指導の充実
- ・1年生指導講師、3年生E・A、算数GST、理科SA)
- ・1年生プレクラス制度(4月から約1か月間のプレクラス)
- ・1人1台のタブレット端末の学習ツールとしての活用
- ・タブレットを活用した複線型授業、協働的な学びと個別最適な学びの一体化
- ・タイピングスキルの向上(全学級 キーボー島)
- ・年間2回のオンライン授業
- ・国語科・算数科に焦点を当てた校内研究による授業改善
- ・情報モラル教育、セーフティ教室
- ・地域にある大使館訪問、寺社及び郷土歴史館等の施設見学
- ・国際科の充実(毎月1回のEnglish Day、国際科室の環境整備)、メトロラーニングの活用
- ・ゲストティーチャーによる出前授業(水道キャラバン、パラスポーツ、投げ方教室など)
- ・漢字検定(3学期)
- ・年間3回三田アカデミー授業(幼保小中の連携)
- ・言語活動の充実(リーディングツリー、読書月間)

(3) 【体】 健康の保持増進及び体力向上を図る教育の推進

- ・毎朝始業前の15分間の朝遊びの推奨
- ・前年度の体力テスト結果の考察から投力の向上につながるウレタンボール使用の推奨
- ・休み時間のボルダリングウォール及び一輪車の活用
- ・MINATO リズムダンスフェスタへのチャレンジ
- ・体育集会(長縄週間、短縄週間、ペース走、ダンス等)の計画的な実施
- ・JA秋田しんせいの生産者による食農教育
- ・学校保健委員会の開催

Ⅶ 特別支援教育の充実

1 特別支援教室での指導について

児童が抱えている学習上または生活上の困難さや困り感を改善・克服することによって、在籍学級での有意義な学校生活を送れるようにする。また、特別支援教室での指導により、達成感を得て自尊感情・自己肯定感を向上させ、児童が主体的に困難を改善・克服しようとする取組を促し、在籍学級での有意義な学校生活につなげていく。

2 校内委員会の充実

特別支援教育コーディネーターを核として、定期的な校内委員会及び研修会を開催し、教員間の情報交換及び共通理解を図り、発達に課題のある児童への指導や特別支援教室の意義等について、特別支援教育に関する知識・理解を深めていく。支援または入室については、巡回相談心理士やSC等の意見も踏まえ、適切に判断していく。

3 SNA（スペシャルニーズアシスタント）の効果的な活用

各学級において、学校生活に困難さを感じている児童及び支援が必要な児童に対して、学校全体の状況を踏まえつつ、柔軟に対応できるよう配置をしていく。

Ⅷ 教職員の働き方改革

児童と向き合う時間の確保や児童に質の高い教育を提供するため、また、教職員の健康の保持増進のため、働き方改革を推進する。

1 業務改善

- (1)指導講師、SA(サイエンスアシスタント)、SSS(スクールサポートスタッフ)、EA(エデュケーションアシスタント)、GST(会計年任用講師)、会計年度任用職員、ICT支援員等の人材活用
- (2)地域コーディネーターによるボランティア人材の確保(学校行事の手伝い、引率補助等)
- (3)会議の精選と校務のICT化によるペーパーレス化
- (4)Formsを活用した学校評価、アンケートと集約、考察、公表
- (5)長期休業中の積極的なテレワークの推奨

2 教職員一人一人の健康保持

- (1)風通しのよい職員室の雰囲気づくり
- (2)メンター制度を活用した若手教員(新規採用教員)への支援
- (3)ストレスチェックの結果分析に基づいた職場環境改善
- (4)区内、区教研体育部によるスポーツ大会(港カップ)
- (5)健康診断の受診と健康相談の実施
- (6)定時退勤の推奨